

角館武家屋敷: 指定保存地区

角館には、江戸時代（1603-1867）に建てられた「武家屋敷」と呼ばれる威厳あふれる武士の邸宅が数多くあります。これらの屋敷のある地域は、保存地区に指定されており、長きにわたってこの旧城下町の武家の歴史を伝えてきました。

角館は、1620 年に秋田藩藩主の弟である蘆名義勝（1575-1631）によって創始されました。三方を山々に囲まれ、西に桧木内川、南に玉川が流れるこの肥沃な仙北平野の北部は、攻めてくる敵から容易に町を守ることができ、城下町に理想的な場所でした。

角館の町のつくりは特徴的で、武家屋敷がある町の北部「内町（inner-city）」と、商人と町人の住居がある南部「外町（outer-city）」を土の防火壁が区切っていました。

町の北側では、個々の武家屋敷の周りに木が生い茂り、建物群が全体としてひとつの要塞のように見えます。武家屋敷の並ぶこの通りは、武家屋敷通りと呼ばれ、古城山のふもとを通る国道 46 号線と、前述の土の防火壁「火除け」の間に位置しています。1976 年 9 月、この地域は重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

角館は武家町に加えて桜も有名です。武家屋敷通り沿いの優美なシダレザクラと桧木内川沿いに 2 キロメートルに渡って淡いピンクの花を咲かせるソメイヨシノがよく知られています。